

ヤマタネ、千葉拠点で太陽光発電

SMFLみらいと契約

ヤマタネはSMFLみらいパートナーズ（東京都千代田区）とオンサイト型自家消費太陽光発電サービス（PPAモデル）の契約を結び、運転を始めた。ヤマタネの拠点（写真）でPPAモデルを用いた太陽光発電設備の導入は今回が初めて。

2030年までに温室効果ガス（GHG）排出量を13年度比50%以上削減する目標の達成につなげる。

SMFLみらいがヤマタネ印西事業所（千葉県印西市）の印西精米センター、印西アーカイブズセンターの屋根に太陽光パネルを計2268枚設置。発電した電力の全量を両センターに供給する。



パネル容量は1224キロワット。年間想定発電量は111万4000キロワット時。二酸化炭素（CO₂）排出量を年間509トン削減できる見込みという。

PPAモデルは、発電事業者が需要家の敷地内に発電設備を設置して電気を供給する電力購入契約。